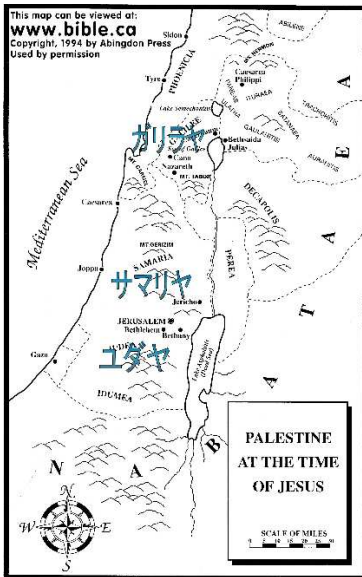


## 006 イエスの時代のイスラエルの三つの地方(ローマの行政区)

イエスの時代のイスラエルは、大まかに北から①ガリラヤ、②サマリア、③ユダヤの三つの地方(ローマの行政区)に分かれていた。



### ①ガリラヤ

ガリラヤは最も北方の地方で、全体の 1/3 を占め、イスラエルの十二部族のうち「ナフタリ Naphtali」が治める山岳地帯で、ユダヤ人と異教徒が住んでいた。

もともと異国の「カナン人 Canaanites」の地として知られ、その後もソロモンがこの地方の 20 の都市を材木の支払いの代わりに他国に渡したり、アッシリア帝国に征服されたりして、異教徒の植民が進んだ。

これらの理由からエルサレム周辺の純血を尊ぶ保守的なユダヤ人層はガリラヤ地方を嫌い、福音書の中でもガリラヤ地方について皮肉が言われる理由はここにある。

イエスが幼年時代を過ごした「ナザレ Nathareth」があり、十二使徒の内、「イスカリオテのユダ Judas of Iscariot—イエスを裏切った使徒」を除き、全員がガリラヤ地方の出身である。また、この地方にある「カナ Cana」の町でイエスは水をぶどう酒に変える最初の奇跡を行い、やはりこの地方の町「カペナウム Capernaum」はイエスの伝道活動の中心だった。

### ②サマリア

十二部族のうち「エフライム Ephraim」と「マナセ Manasseh」に当てられた大変肥沃で魅力的な土地で、東西南北に街道が通り交易も盛んだった。肥沃な土地のおかげで王国が南北に割れた際に、サマリアを含む北朝イスラエルは経済的に富んでいた。侵略の対象にもなり、また交易が盛んであったため異教徒が多数入り込んだ。

サマリアは地方の名前であると同時に町の名前でもあり、サマリアの町は BC722 年にアッシリア帝国の侵略に屈し、上流中流の市民が連れ去られて、代わりに異国民が植民された。これらの異国民は国外追放を免れた下層のユダヤ人たちと結婚し混血種のサマリア人が増えた。

サマリア人は創造主としての神さまを信仰せず、異国の神々や偶像を崇拝したので、預言者は偶像崇拜、不道德、そして贅を好み貧しい者から搾取する邪悪を責めた。サマリア地方のユダヤ人が異国人と結婚したこともあり、保守的なユダヤ人層からは大変嫌われていた。

ガリラヤとユダヤの間に位置し交通の便も良かったので、サマリア地方は南北を行き来する旅人の通り道だったが、宗教上の汚れを嫌うユダヤ人たちはサマリア人との接触を避けるためにわざわざヨルダン川を渡って川の東側を北上して旅をした。

### ③ユダヤ

「ユダヤ Judea」は「ユダ Judah」のギリシア・ローマ調の「Jewish (「ジューイッシュ」)と発音し「ユダヤ人の」の意味)から転じた言葉で、バビロニア帝国に連れ去られたユダヤ人の中で後にパレスチナへ戻ってきた十二部族のうち、ユダ族の人たちを指す。

「エルサレム Jerusalem」の都があり、イスラエルの政治上、宗教上の中心地であった。